

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175700434		
法人名	有限会社 リアン		
事業所名	(有)リアン グループホームえみな栄町		
所在地	北海道岩見沢市栄町2丁目1番9号		
自己評価作成日	令和3年2月5日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表センターページで閲覧してください。
 基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&Jigvsvocd=0175700434-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	合同会社 mocal
所在地	札幌市中央区北5条西23丁目1-10-501
訪問調査日	令和3年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が笑顔で毎日すごせるように、ご利用者様と地域社会、スタッフと地域社会との関係を大切にしています。
 医療との連携により、安心して生活できるように、ご利用者様にあったケアを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームえみな栄町は岩見沢市郊外にある静かな住宅地に位置し、小規模多機能事業所との併設型の1ユニットの事業所です。施設内は明るく長い廊下を挟み事業所の居間と小規模多機能型事業所が両側にあり、居室も対面にある造りです。自肅以前は、町内会夏祭り等への参加や事業所夏祭りに地域の方が訪れて交流をしたり、併設事業所との合同の行事のほか、外食を兼ねた遠出や道の駅、風光明媚な場所へ出るなどの外出支援を行っていました。今年度は畑仕事やテラスでの日光浴、食事では外食の代わりにテイクアウトを利用し変化をつけたり、利用者と一緒に手作りするおやつレクを催しています。また、毎日のラジオ体操やパズル、将棋、消しゴム判子作りなど、施設内で少しでも楽しんでもらえるようにアイデアを出し合い取り組んでいます。3月末には焼肉パーティーも企画しています。事業所名であるえみなの語源のように「笑い」「微笑み」のあるケアサービスに努めている事業所です。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	<input type="radio"/>	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	<input type="radio"/>	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30、31)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、行事や会議の際にスタッフ間で話し合い、共有して実践につなげています。	基本理念はパンフレットに明示して利用契約時に家族へ説明しています。理念には利用者・家族・地域との3つの絆を大切にする文言があり、職員は理念に沿ったより良いケアサービスとなるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で行事への参加は出来ていないが、併設の小規模多機能型居宅介護をご利用されている方々との交流は日常的に行っています。	自粛以前は、町内会の祭りや盆踊りに出かけたり、事業所夏祭りに野菜の直売コーナーを設け地域の方も訪れやすいよう工夫して参加を得ていました。施設機能を活かし女性・子ども110番の協力を行っています。町内会回覧板で地域の情報を収集しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方がオムツの使用法の相談に来られた際に自分たちの行っている方法をお知らせするなど地域への伝達を行っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そのでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はコロナの影響により地域の方や行政の方などの参加はいただけていません。毎回テーマを決めてスタッフ間で資料を回覧し意見を出し合い情報を共有しています。	感染症対策により施設長・管理者・職員のみ開催とし、議事録を家族等へ送付しています。利用者サービスの提供状況、感染症対策、災害対策、高齢者の水分補給・脱水防止など資料を用いて協議され報告し、当日参加していない職員へも周知しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ご利用者様それぞれのケースにより、行政へ確認をとったり、その逆もあります。必要に応じて、ケアマネージャーや管理者が対応しています。	市の担当者とは生活保護の方に係る案件について意見を仰いだり確認をしています。新型コロナウイルス感染症拡大予防に係る資料を得たり情報提供があり、職員へも周知しています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていません。毎月の会議の際に、身体拘束虐待防止委員会を開催し話し合いを持っています。	同法人4事業所合同で毎月身体拘束虐待防止委員会を開催し、現在はリモートにて行っています。これらに係る内部研修は調査時点で1回となっていますが、年度内に資料配布の形式で実施する予定です。防犯上の理由により夜間帯のみ施錠しています。	身体拘束適正化に係る書類の整備、見直しに着手する意向ですので、その取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で行われる虐待防止に関する研修会に出席し、その結果はスタッフ間で報告する事によりフィードバックし、情報の共有をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、その結果をスタッフ間で共有していましたが、コロナの影響により現在はできていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはしっかりと説明を行っています。不明点や不安な事などは随時相談を受け、丁寧な説明が出来る様になっています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来所された際には、玄関のガラス戸越しの面会をしていただいています。ご利用者様のご様子をお伝えするとともに、ご家族のご意見も頂けるような会話を心がけています。	左記自己評価の他にリアン通信、利用者の写真、健康管理記録を家族へ送付し、また電話でも利用者の状況を知らせ、意見や要望を出してもらるようにしています。利用者からはたまには出かけたなど素直な意見が上がっています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者やケアマネージャーは、実際の介護の現場に入ることもあり、スタッフからの意見はいつでも聞くことができます。出来る限り速やかに対応するように上司へ伝えるなどの方法をとっています。	管理者は日々の中でその都度職員の意見や情報、提案を取り入れて一緒に話し合いながら対応しています。希望休制度を取り入れています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得の希望や研修会への出席など、向上心を持って働けるよう、また、個々の勤務の希望や個人的な事情などを加味しての勤務を組み立てています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会への参加、また、日々の介護方法についても悩みがある際には相談を受けるなど、スタッフ一人一人の技術の向上を進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	グループ会社の会議や懇談会などに出席できるような機会を作っています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の情報を確認しあい、入所後には時間をかけて対応するなど、不安のないよう対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族ともしっかりとコミュニケーションを図り、不安な点やご希望などを把握できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居される前の段階でしっかりと話し合い、ニーズの把握に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の支度や掃除、洗濯など、個人個人の負担にならない範囲で、出来る事をしていただき、生活の中のリハビリとともに役割を持って生活していただいています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響で直接の面会はできていません。衣類や日用品などをお届けいただいた際は玄関のガラス戸越しの面会や、ご本人との会話をスタッフが仲介するなど、関係性を持続できるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の方が来られた際には、ゆっくりと過ごしていただけるような環境を整え、面会できるように対応していたが、コロナの影響により現在は面会のご家族以外は控えています。	面会制限以前は、友人の訪問がある方や家族宅への一時帰宅、外泊などをする利用者もいました。手紙の代読や家族との電話のやりとりをサポートするなど、できるところで支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は主に居間で過ごして頂き、ご利用者様同士の関りがもてるようにしています。ご利用者様の間でトラブルになりそうな場合は、スタッフが速やかに介入できるよう、見守りを行っています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談事や不安な事があれば、いつでも相談いただける事をお伝えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の体調や、また安全面を考慮しながらご希望に添えるように対応しています。実現が困難な場合は一緒に代替案を考えるなどの方法もとります。	利用者から直接要望等を聞いたり、日常生活の中で興味関心のある事柄などを観察するなどして把握しています。表出が難しい方の場合は生活歴や家族からも情報を得て検討しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前情報をしっかり確認し、入居されてからもご本人との会話などから把握できるようにします。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況や興味をもたれている事柄などを観察し把握できるようにします。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の観察や会話の中から必要な情報をくみ取り介護計画に反映しています。	アセスメントはインターライ方式を用いています。施設サービス計画書実施記録表に計画実施状況を記録し情報を蓄積しています。カンファレンスで状態像を分析し関係者間の意見等を盛り込み計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日ケアの実践記録をとり、それを元に情報共有する事、また、スタッフ間の連絡ノートを共有に使い、細かい情報も共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	大まかな日程はありますが、その時々に応じて個別の対応をするなど、柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会には加入していますが、コロナの影響により面会制限や外出自粛などしており、地域との関わりはできていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診、歯科の定期健診を受けています。夜間でも急変時には連絡がとれる体制も整っています。往診のない医療機関にもご本人やご家族様の希望により受診の付き添いなども行っています。	協力医療機関内科医による月1回の往診、歯科医による定期検診と必要時の往診、月2回の訪問看護の体制を整えています。受診等の内容は個別の健康管理記録、受診・往診報告書に記録しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により定期的に訪問看護を受けています。個人の状態をお知らせし、適切な対応につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院された際には、医療関係者から容体について説明を受け状況を把握しています。早期の退院に向けて、事業所内でできる事をお知らせします。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居だけでなく、体調変化に応じて都度の面談の機会を持ち、十分な説明と丁寧な対応を行っています。主治医との連携により、きめ細かい支援の体制を作っています。	「えみな看取りに関する指針」「看取りについての事前確認書」にて利用契約時に説明しています。医師の判断に基づき関係者間で今後の方針を取り決めていきます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修への参加は制限されており、日頃からの話し合いや実際の対応により実践力を見つけています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方の参加をいただく避難訓練はできていません。自家発電装置を設置し、停電に備えています。	令和元年11月に夜間想定での火災避難訓練を消防署、町内会の協力を得て実施しています。水害対策については資料を用いて確認しています。災害備蓄品の強化では自家発電装置が設備されました。	来年度は年2回の避難訓練を通常通り実施する意向であり、実際の避難先までの経路確認等を含め今後の取り組みとしていきますので、その実現に期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉遣いや優しい声かけを心がけています。	言葉がけに留意し、気になる言葉があった場合は管理者が指導したり職員間でも注意をしています。個人記録類の適切な保管場所を取り決めていきます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示の難しい方にはクローズドクエスションを用いる等、工夫しながら対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	そのかたのペースやその日の気分によりそえるような支援をこころがけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外部の方の訪問を制限しており、理美容業者の訪問を受ける事は出来ませんが、スタッフがご利用者様と会話しながらヘアカットするなど、身だしなみを整える事が出来るように支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の要望を聞いたり、季節の物を組み込んだりしています。調理や後片付けなどご利用者様と一緒に行う事で、役割を持って生活して頂いています。	職員が時々利用者の要望や旬の食材を取り入れて献立しています。季節の行事食や丼物のテイクアウト、おやつレクも取り入れて食の楽しみに繋がっています。食事一連の作業に利用者もできるところで関わっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録として残しています。必要に応じてトロミをつけたり、ミキサー対応するなどしています。また、その日の体調や嚥下状況に応じての対応も行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの際には、必要に応じて声かけや介助を行っています。それぞれの交代にあったケアグッズを準備して使っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人ひとりの間隔を把握しタイミングを計ってトイレの声かけや介助を行っています。自立の方はおひとりですっきり用を足せるように、またオムツの必要な方にも適切な間隔で交換に入れるようにしています。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、誘導が必要な方へは適宜声かけして介助しています。失禁時は他者に気づかれないよう羞恥心に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握し、乳製品などの腸の運動を促す物の提供や、主治医の指示の元で下剤の服用もしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	大まかな予定は立てていますが、ご希望に添えるような対応をこころがけています。	日曜日以外の午前・午後の時間帯で、利用者1人につき週2回入浴できるようタイミングを見て誘導しています。ストレッチャー、ボディーシャワーの入浴機器があり重度化の方も湯船に入っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	必要に応じて休息の時間を取っています。昼間の仮眠で夜間の睡眠が妨げられるような方については早めの時間に休息していただくなどの工夫をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、専門の箱にセット内容を書いたカードをつけた上で、服薬時にはほかのスタッフと声を掛け合い確認して、服薬の介助を行っています。薬の内容も把握しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お好きな事や興味のある事、得意な事をしていただけるような支援を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敷地内での対応となりますが、天気の良い時は散歩や畑仕事などで外へ出かけます。体調面で難しい方も、テラスで日光浴をしていただくなど、その人に合った支援の方法を行っています。	外出制限以前は、花見や小樽水族館、長沼の道の駅、海鮮を食べに行くなど小旅行気分も取り入れて出かけていました。今年度は、畑作業や花壇の手入れ、テラスでの外気浴などのできる限りの支援を行っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の難しい方がほとんどです。外出行事の際などに買い物をして頂くなどの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆や代読、電話の介助は必要時に行っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	内装や家具等は刺激のない物を使用していますが、季節の飾りつけも行いますが急に変わって混乱を招かない様に注意しています。	小規模多機能事業所との併設型の建物で長い廊下を挟み居室が配置されています。共用空間は明るくリビングダイニングが一体的になった造りです。床暖房、空気清浄機、加湿器、陰圧機を設置し、快適な環境に配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的には居間で過ごしてもらう事が多いですが、希望により自室へ戻ったり、他の利用者様とトランプやゲームをするなど楽しんで頂ける様に工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時の室内の家具等はご家族様に整えていただき、細かい整理はスタッフが行っています。必要に応じてご家族へ確認をとり不足している物も準備をお願いしています。	居室にはクローゼット、照明、カーテンが備え付けられ、入り口に表札があります。馴染みの家具や大切にしている品々が持ち込まれています。趣味の編み物を自室でする方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各所に手すりを配置し、できるだけ自力で移動出来る様に支援しています。トイレや洗面などは、ご利用者様それぞれの使いやすい場所をスタッフが把握しており、使用が重なる時間などは順番を調節するなどしています。		